

オンライン複言語学習の課題と可能性

—世界の言葉プロジェクトを通じたグローバル教育に向けて—

大前智美

大阪大学

複言語学習とは

グローバル化に伴い、日本も多言語多文化社会へと移行し、その結果、多言語・異文化理解が求められるようになってきている。大阪大学では筆者の所属する研究部門が中心となって2018年から小学生向け複言語学習「世界の言葉プロジェクト」と2019年から市民講座「複言語学習のススメ」を行っている^{☆1}。複言語学習は、子どもたちや市民講座の参加者がさまざまな言葉に触れ、世界にはたくさんの言葉があることを知り、世界の人々や文化に関心を抱き、多様性を理解し、受け入れ、多言語多文化社会を生き抜くための力をつけることを目的として行っている。

複言語学習の実施形態

小学生向けの複言語学習は小学校の授業に合わせ1回45分の授業で1言語を学習する。たとえば2023年度には岡山市立芥子山小学校6年生4クラス約140名を2グループに分けて、対面で1回、その

^{☆1} 本研究はJSPS 科研費JP 21H00543の助成を受けたものです。

	1・3組	2・4組
9月22日	ドイツ語 (体育館で対面授業)	
10月4日	韓国語	中国語
10月11日	中国語	韓国語
11月1日	ベルシア語	インドネシア語
11月8日	インドネシア語	ベルシア語
11月15日	フランス語	カンボジア語
11月29日	アラビア語	タイ語
12月6日	タイ語	アラビア語
12月13日	ベトナム語	ポルトガル語
12月20日	ポルトガル語	ロシア語

図-1 2023年度小学生向け講座実施言語

後 Zoom を使ったオンライン授業で9回の講座を実施し、全部で12言語の学習を行った(図-1)。

講座は、学習する言語が話されている地域の地理、文化、食事などについての情報を講師が紹介し、あいさつ・自己紹介・「～が好きです」という表現を毎回違う言語で学習する。さらに、学習した内容をビデオに記録し、後述する Flip や Padlet に学習成果を提出するという流れで行っている。

一般市民向けの複言語学習講座では、1回45分×2セッションの講座を年に4回程度実施している。2023年度には対面講座2回、オンライン講座を2回実施した(図-2)。市民講座では、1回の講座であいさつ・自己紹介・「～が好きです」などの表現を、3～4言語で同時に学習する。

どちらの講座もカタカナやアルファベットで発音を表記することなく、児童や受講生は、講師の先生の発音を聞いて、そのままの音を発音できるように耳と口に神経を集中させ、時には体を使って、初めて触れる

開催日	8/5(土) 対面	9/9(土) Online	10/15(日) Online	11/19(日) 対面
実施言語				
1	アラビア語			✓
2	インドネシア	✓		✓
3	カザフ語	✓		✓
4	カンボジア語			✓
5	スペイン語	✓	✓	
6	タイ語	✓		
7	タミル語		✓	
8	デンマーク語			✓
9	ドイツ語	✓		
10	トルコ語	✓	✓	✓
11	ヒンディー語	✓	✓	
12	フランス語	✓		
13	ベトナム語	✓		✓
14	ベルシア語	✓	✓	
15	ポルトガル語			✓
16	ロシア語	✓	✓	
17	韓国語	✓	✓	
18	中国語		✓	✓
実施言語数	6	9	8	9

図-2 2023年度市民講座実施言語



外国語の音や表現を体全体で自分のものにする。

これらの複言語学習の講座の講師は、大阪大学の教員・留学生・修士生が担当しており、筆者ならびに研究部門のスタッフはコーディネーターとして参画している。

使用する ICT ツール

複言語学習では、ICT を活用しながら言葉の学び方を学ぶことも目的としている。そのため、講座ではさまざまな ICT ツールを活用し、また学習記録を残しながら次の言語、次のステップに進む。

□ Flip

Flip^{☆2} は Microsoft 社の提供する教育用 SNS である。学習した内容をビデオ撮影し提出することで、クラス内でビデオを参照でき、コメントやステッカー等でお互いに評価することができる(図-3)。

複言語学習では Flip に学習内容を振り返るお手本動画をアップしておき、児童や市民講座の参加者はそのビデオを見ながら復習し、自分が学習した外国語の表現を話すビデオを撮影し、Flip に提出する。提出されたビデオを担当した講師が見て、コメントすることもある。(Flip は 2024 年 9 月末をもってサービスを停止することが決定している)。

□ Padlet

Padlet^{☆3} は教育用掲示板のような役割をするアプリケーションで、テキスト、画像、動画やリンク情報などを掲載できるだけでなく、参加者同士が Padlet 上で共同作業も可能である。

☆2 <https://info.flip.com>

☆3 <https://padlet.com/>



図-3 Flip の投稿画面

複言語学習の講座では、Flip と同様にお手本動画(図-4)や講座の資料を掲載したり、Flip が使えない環境の児童たちの学習成果ビデオを提出、共有している。

□ BookCreator

BookCreator^{☆4} は電子書籍を作成・公開するためのアプリケーションである。画像、音声、動画を使った絵本の作成、外部サイトの埋め込み(たとえばクイズツールで作成した練習問題など)、Canva などのデザインツールとの連携も可能である。

「世界の言葉プロジェクト」では現在 22 言語 23 冊の共通教科書を作成している(図-5 参照)。内容は講座で学習するあいさつ・自己紹介・「～が好きです」という表現を文字、音声、画像を使って絵本にまとめている。各言語の教科書の最後には講師による自己紹介のお手本動画も入れており、講座後の復習用

☆4 <https://bookcreator.com/>

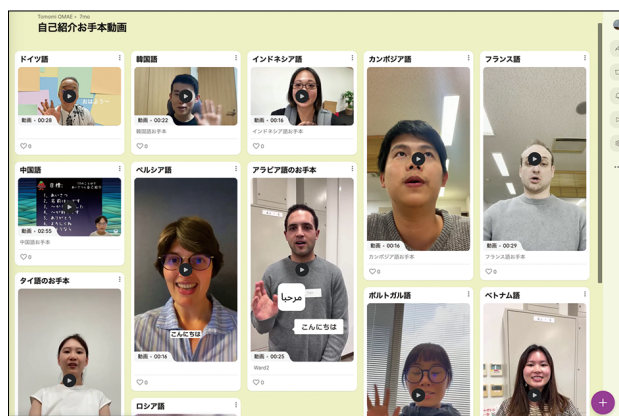


図-4 Padlet に掲載した講師のお手本動画



図-5 BookCreator による復習用教材 世界の言葉図鑑

教材として提供している。

□ Google 翻訳

Google 翻訳アプリはマイクによる音声入力が可能である。学習した表現を Google 翻訳にマイク入力して、入力した音声は文字化され、日本語に翻訳されるのを確認する(図-6)。それによって学習した表現を、通じるレベルで発音ができているかどうかの判断を学習者自身で行うことができる。正しく認識されないと何度も発音を繰り返し、通常の発音練習の何倍も練習を繰り返す様子が見られる。

参加者の声

□ 市民講座参加者の声

複言語学習の講座は、留学生やネイティブスピーカーの教員が発する音をそのまま再現できるように、音だけで基本表現を学習している。このような学習方法や普段触れる機会の少ない言語を同時にいくつも学習することに対して、受講生がどのように受け止めていたのか、アンケートの結果からいくつか抜粋する。

- 何度耳で聞いても再現できないような発音を口にするのが、面白かった。
- あえて文法や文字には触れず、言語の音のコピーに焦点をあてたところ。

● 初めて触れる言語でも、「まずは発話することを中心に」というコンセプトのもとで気軽に学ぶことができた。

● こちらの講座でペルシャ語と出会って以来イラン文化センターでオンライン講座を受講しています。イスラム圏の知識はまったくゼロでしたし、文字も初めて。でも世界が広がったと思います。

従来の文字や文法から始める外国語学習とは違う点につ

いて、受講生は好意的に受け止め、また本講座をきっかけに次の新しい言語の学習を継続している例も見られる。また、これまでの外国語学習との違いについて感じた点をいくつかピックアップし紹介する。

- 耳だけで学習する、ということはとてもハードルが高いように感じますが、グループのメンバーと一緒に同じ目標に向かっていくことに心強さを感じられ、ほかの人と一緒に学ぶ良さを実感しました。
- 先生が生徒と一緒にほかの言語に挑戦しているのを見られたこと。また、未知の言語をいちどに3つも学ぶなど正気の沙汰ではないと思いでいた節があったが、混ざるといことはなかったし不可能とも思わず、むしろ比較対象があるので有利な点もあるのでは？と感じた。
- いままでは文字や文法から学習していたので、聞くことから学習が始まる学習方法が新鮮で、文字が分からないためメモを取ることもできないので、聞くことに集中できました。
- メモはするけど基本的に「聞く→まねる→話す」というサイクル、「短い時間でこんなにできた」という実感があつた、また逆に「短い時間でこんなにやるんだからちょっとぐらい間違ってもだいじょうぶ」という間違えることに対する不安感が少なかった。複言語学習の講座は同時に3～4言語を学習しているので、講師も自分の教える言語以外については受講生と一緒に学習に参加する。講師も一緒に間違えたり、聞き返したりしながら学習する姿を見て、受講生は間違えることや覚えられないことへの不安を持たず、積極的に発話しながら言葉を体で覚えていく姿が見られる。また、同時並行で複数の言語を学習することで、言語ごとの特徴を知ることができたり、新しい発見や関連付けをしながら学習を行っている。

□ 小学生の受け止め方

2023年度に行った大規模校での小学生向け複言語学習実施後に、外国語学習や複言語学習についてのアンケート調査を行った。124名の回答があり、その結果、80名の児童が複言語学習を楽しいと感

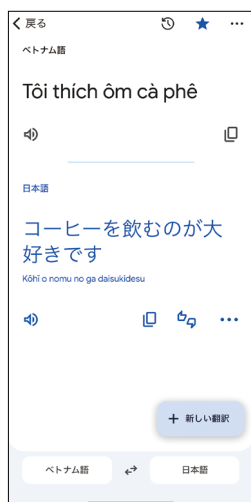


図-6 Google 翻訳へのマイク入力結果画面



じているが、そのうち40名は英語については得意だとは思っていない。また、英語は得意ではないけれど、高校や大学で英語以外の言葉を学ぶのが楽しみだと感じている児童が20名いた。複言語学習を楽しいと感じた児童たち80名のうち、英語をもっと勉強したくなった児童が38名、ほかの言語を学ぶのが楽しみだと回答した児童が41名いた。さらに複言語学習を経験してから外国語・文化への興味関心を高め、調べ学習を行った児童が35名おり、外国の食文化・料理・言語・国の歴史や伝統・文化など幅広く学習を行っている様子が見られる。複言語学習を通して、得意ではないと思っている英語に対しても、新しい外国語についても学びたい意欲が増していることが分かった。

児童たちの感想では「複言語学習をして苦手だった外国語も好きになったのもっと詳しく知りたいと思いました」、「いろいろな発音やリズムの言葉がたくさんあってとっても楽しかったです」、「学んだ言葉が通じるか試したいです」、「その国のじゃんけんが、どんな言葉をするのかな？」など言葉を使うことへの意欲や言葉を通して外国や異文化を知ることへの意欲も高まっていることが分かる。

課題と今後の展開

市民講座も小学生向けの講座もオンラインが中心であったため、講師の発音を正しく伝えることやすべての参加者、児童の声を直接聞くことが難しい面があった。この点については、お手本動画や学習成果ビデ



図-7 韓国語文字講座教材

オを Flip や Padlet に共有することで対処していたが、口や舌の動きなどで微妙に違う音や声調など細かな点を伝える、身につけるには課題が残った。今後は伝えるのが難しい音をどのように伝えるのか、これまでは音を中心に学習してきたが、文字を効果的に組み合わせる方法などを検討したいと考えている。

複言語学習を通して、日本語や英語以外の言葉に触れるきっかけとなり、新しい出会いにつながっていることが受講生の声から拾いとることができる。そして、学習した音を文字でどう表現するのかを知りたいという声を受け、2022年度からは文字講座も実施している。韓国語、ペルシア語、ロシア語、ヒンディー語、タイ語などのローマンアルファベットとは違う文字を使う言語で、学習した表現や自分の名前を書いてみるという体験を通して、音と文字の結びつき、言葉への理解を深めている(図-7)。

筆者たちの行っている複言語学習の講座では、ICTを活用しながら、言葉の学び方を学び、多言語多文化社会を生きていくための力を育むことを目的としている。参加者たちの「知らない」を「知っている」に変える第一歩となり、言葉の学習を通して、「できない」が「できた」に変わる喜びを感じる活動に繋がっている。今後は継続的に自律的に学習できるプログラムを検討し、複言語学習の講座を発展させたいと考えている。

参考文献

- 1) 岩居弘樹, 大前智美: 小学校向けオンライン複言語学習の可能性と課題—大規模校での実践を通して—, 2023 PCカンファレンス論文集, pp.207-210 (2023).
- 2) 大前智美, 岩居弘樹: 「複言語学習のススメ」による学び方の学び, 2023 PCカンファレンス論文集, pp.243-245 (2023).
- 3) 世界の言葉図鑑, <https://bit.ly/3XaJesH> (2024年8月3日受付)

